

DIC株式会社

2022年度決算説明資料

2023年2月



MSCI Japan ESG
Select Leaders Index



MSCI Japan Empowering
Women Index (WIN)



DIC株式会社

ハイライト

2022年の振り返り

売上高

10,542億円

前年同期比 +23.2%

営業利益

397億円

前年同期比 △7.5%

- 年間を通じてエネルギー、物流及び原料コストの増加に対する価格対応を進めたことに加え、円安による為替換算影響を受けた結果、大幅な増収。また、カラー&ディスプレイセグメントにおいて、前第2四半期までは連結対象外であったC&E顔料事業（旧ドイツBASF社のColors & Effects顔料事業）の売上が通年で加わったことが増収幅を押し上げた

- 多くの製品で価格対応に取り組み、原料コストを中心に価格転嫁が進んだが、デジタルやモビリティ関連を中心に高付加価値製品の出荷数量が減少した影響により減益。一方で、前連結会計年度にはC&E顔料事業の統合に伴う一時費用40億円を計上していたが、当連結会計年度は同様の費用が無くなったため減益幅は縮小した

2023年の見通し

増収増益

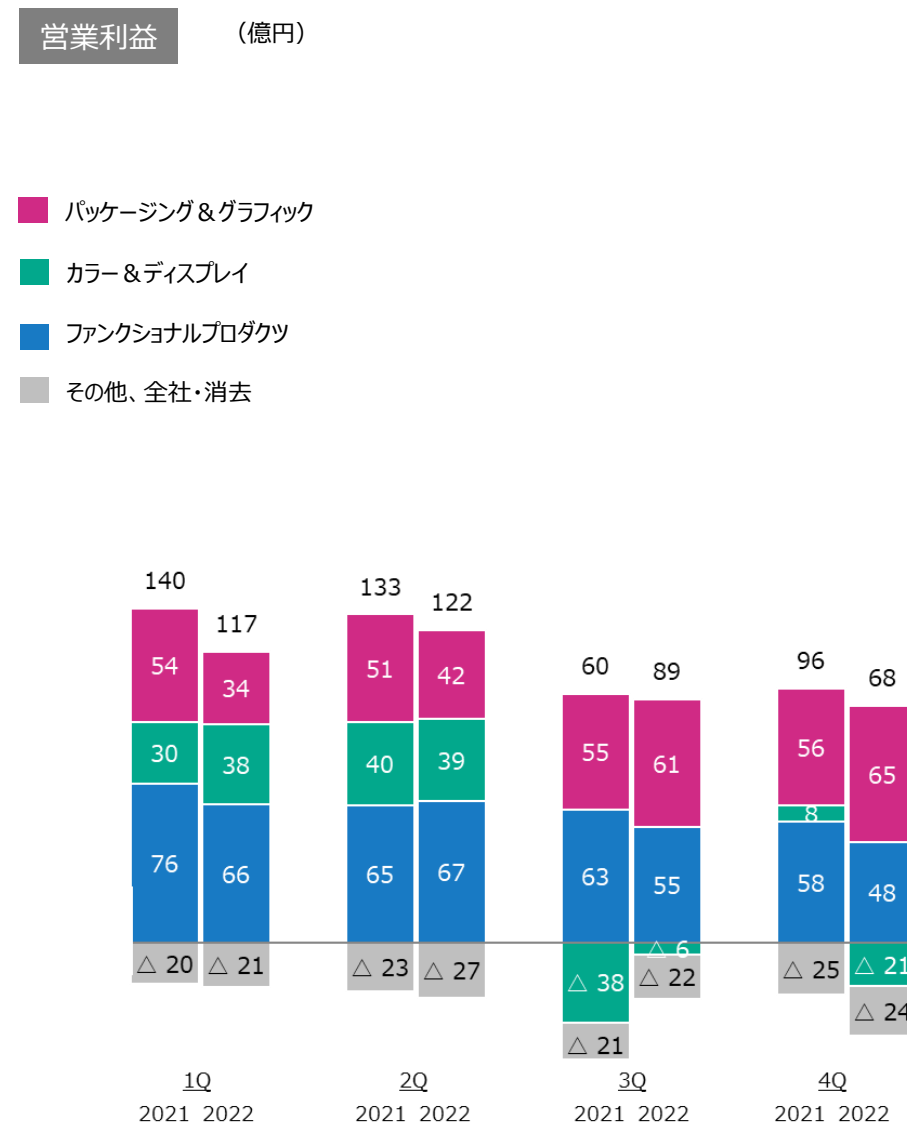
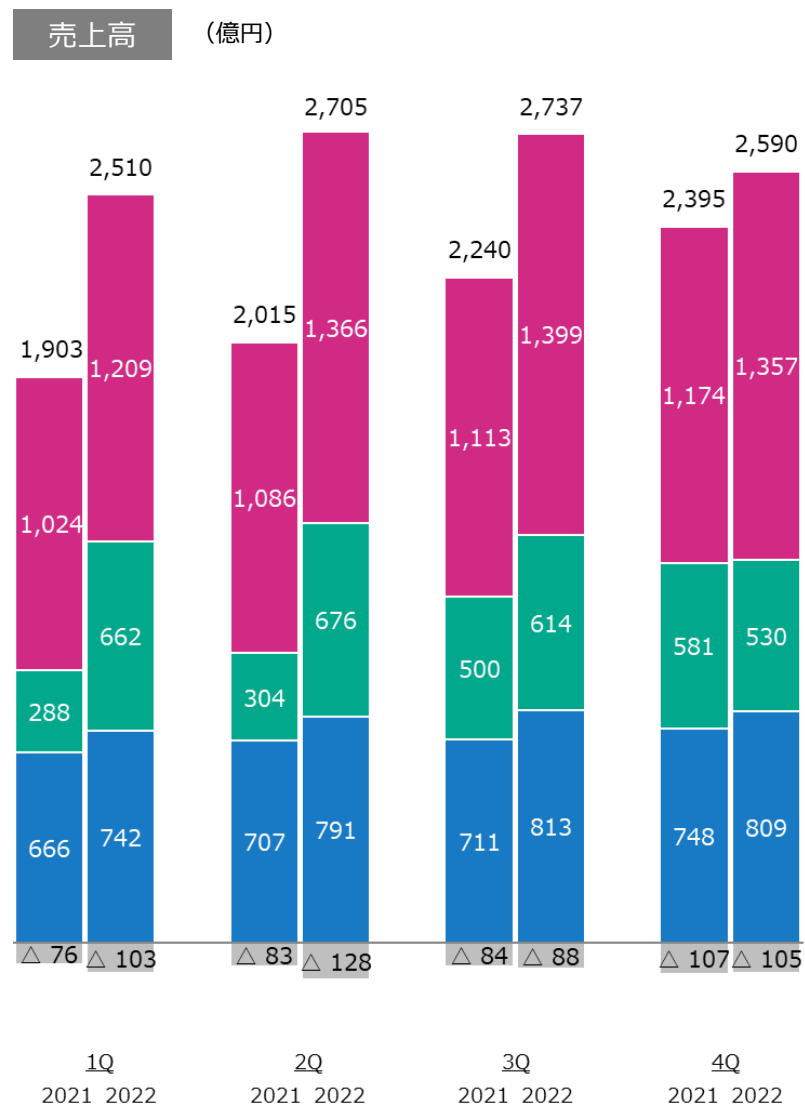
配当は年間100円

- 売上高1兆1,500億円、営業利益430億円の見通し。出荷数量の緩やかな回復により、増収増益を見込む
- 配当は年間100円

当社グループの決算期は、海外子会社・国内会社ともに1月1日から12月31日までの12ヶ月を連結対象期間としています。当期は、2022年1月1日から12月31日までの12ヶ月間を連結対象期間として記載しています。

セグメント別四半期業績推移

※各グラフの上の数値は、「その他、全社・消去」等のマイナス値を含めた連結合計の数値であるため、各グラフの高さとは一致しません



セグメント別 主要製品の四半期出荷数量の前年同期比推移

パッケージング & グラフィック（パッケージ用インキ、出版用インキ※）

※新聞インキを含む

1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
+0%	△0%	△4%	△9%

- Sapici（22年1月に買収したイタリアの接着剤・ポリマメーカー）による数量増加があったものの、ボリュームが多い欧州において第3四半期に入ってから出荷数量が停滞した
- 第4四半期に入ってインフレの影響が強まり、米州・欧州で出荷数量の減少が加速した

カラー & ディスプレイ（C&Eを除く顔料）

1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
△5%	△11%	△19%	△28%

- 欧州での景気減速により需要が大きく後退した。第4四半期は顧客の在庫調整の動きが強まり、出荷数量の落ち込み幅が拡大した
- 高付加価値製品であるディスプレイ用顔料の出荷は、パネルの在庫調整により大幅な減少となり、特に業績へのマイナス影響が大きかった

ファンクショナルプロダクト（パフォーマンスマテリアル製品※）

※上場子会社と当期中に買収した中国子会社の数量は除外

1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
△6%	△6%	△5%	△10%

- コロナからの急回復があった21年上期と比較すると、22年上期は前年の数量を下回っていたが、デジタル関連の高付加価値製品の出荷は好調に推移していた
- 第3四半期に入り、エポキシ樹脂などのデジタル関連製品の出荷が急激に落ち込んだ。日本では第4四半期に入り、その影響が拡大した

連結損益計算書

(億円)	2021	2022	増 減	増減比	現地通貨ベース 増減比
売上高	8,554	10,542	1,988	+ 23.2%	+ 16.2%
売上原価	△ 6,781	△ 8,550	△ 1,769		
販売費及び一般管理費	△ 1,344	△ 1,595	△ 251		
営業利益	429	397	△ 32	△ 7.5%	△ 5.1%
営業利益率	5.0%	3.8%	-		
金融収支	△ 10	△ 25	△ 16		
持分法投資損益	29	24	△ 6		
為替差損益	3	8	5		
その他	△ 14	△ 3	11		
経常利益	438	399	△ 38	△ 8.7%	—
特別利益	13	28	16		
特別損失	△ 129	△ 76	53		
税前利益	321	352	31		
法人税等	△ 256	△ 165	91		
当期純利益	65	186	122		
非支配株主に帰属する当期純利益	△ 21	△ 10	11		
親会社株主に帰属する当期純利益	44	176	132	+ 303.4%	—
EBITDA*1	690	855	165	+ 23.8%	—

*1EBITDA：親会社株主に帰属する当期純利益＋法人税等合計＋支払利息－受取利息＋減価償却費＋のれん償却額

特別損益の内訳	2021	2022
特別利益		
受取和解金	-	11
固定資産売却益	5	10
投資有価証券売却益	-	4
受取保険金	-	3
関係会社株式及び出資金売却益	8	-
特別損失		
リストラ関連退職損失	△ 5	△ 35
固定資産処分損	△ 31	△ 24
減損損失	△ 16	△ 11
事業撤退損	-	△ 6
買収関連費用*2	△ 69	-
災害による損失	△ 5	-
環境対策引当金繰入額	△ 3	

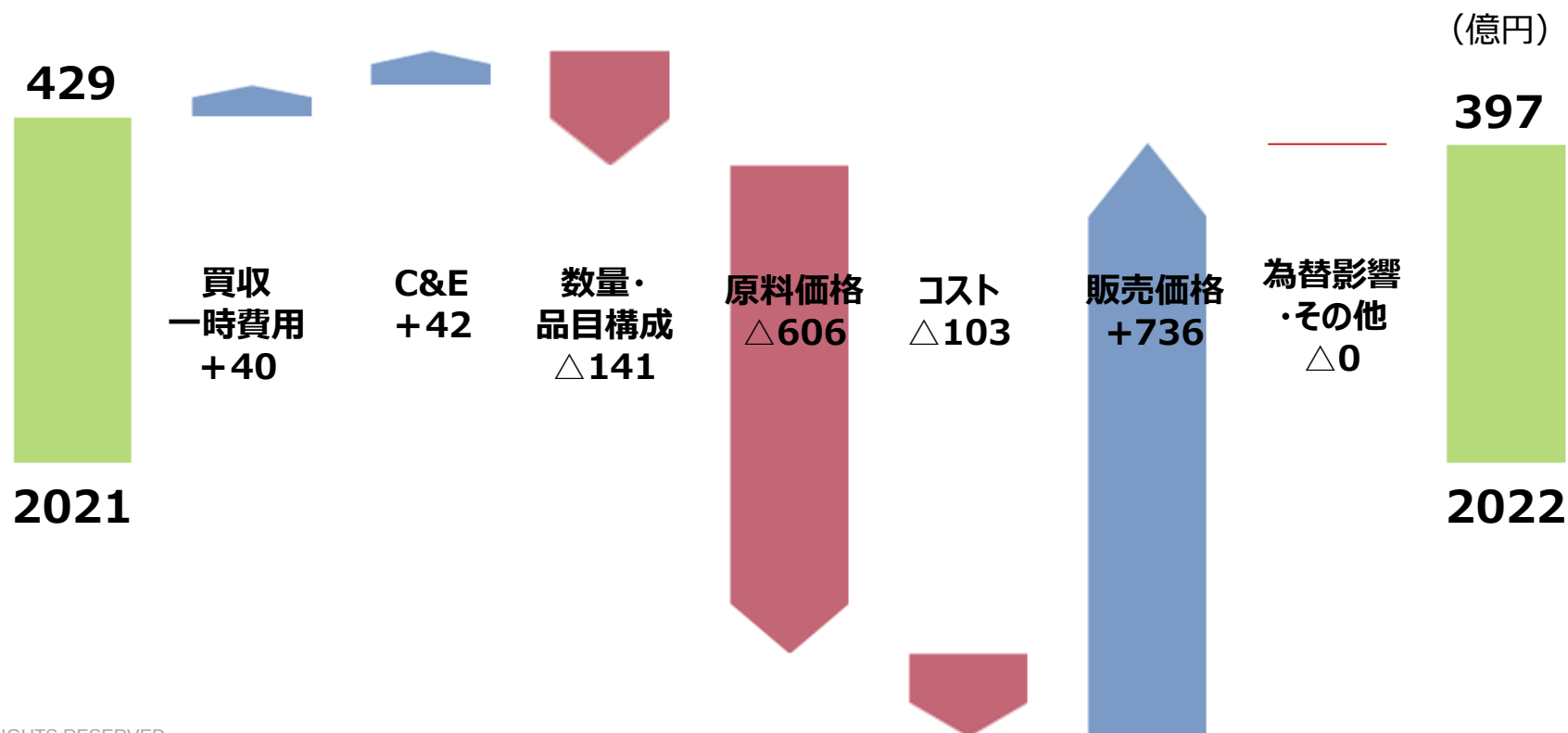
*2C&E買収関連

■平均レート

	2021	2022
USD/円	109.75	130.59
EUR/円	129.73	137.71

営業利益増減要因

- 前連結会計年度に計上したC&E顔料事業の統合に伴う一時費用が無くなったことが40億円のプラス要因になった
- C&Eの出荷数量は当初計画を大幅に下回ったが、前年差では+42億円の増益となった
- 出荷数量の落ち込みに加えて高付加価値製品の出荷減少により数量・品目構成が大幅に悪化
- 価格転嫁とコスト削減を進めたものの減益となった



財務体質

(億円)	2021 期末	2022 期末	増減
ネット有利子負債	3,460	4,459	1,000
自己資本	3,459	3,870	411
ネットD/Eレシオ *1	1.00倍	1.15倍	
(ネットD/CLレシオ *2)	(47.6%)	(51.4%)	
自己資本比率	32.3%	30.7%	
1株当たり純資産 (円)	3,654.61	4,088.60	
ROIC*3	4.8%	3.6%	



- ・ 買収のための資金需要の増加に加え、原料価格の上昇に伴う在庫増によって運転資本が悪化し、増加した
- ・ 会計基準変更に伴うリース債務のオンバランス化による影響120億円を含む

■ 期末レート

	2021 期末	2022 期末
USD/円	115.10	132.63

*1 ネットD/Eレシオ： ネット有利子負債／自己資本

*2 ネットD/CLレシオ： ネット有利子負債／（ネット有利子負債＋純資産）

*3 ROIC： 営業利益×（1-実効税率28%）／（ネット有利子負債＋純資産）

セグメント別業績

(億円)	売 上 高					営 業 利 益					営 業 利 益 率	
	2021	2022	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2021	2022	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2021	2022
パッケージング&グラフィック	4,398	5,330	932	+ 21.2%	+ 14.9%	216	203	△ 13	△ 6.0%	+ 0.3%	4.9%	3.8%
日本	1,147	1,277	130	+ 11.4%	+ 11.4%	48	42	△ 6	△ 12.6%	△ 12.6%	4.2%	3.3%
米州・欧州	2,651	3,374	723	+ 27.3%	+ 19.7%	132	127	△ 5	△ 4.1%	+ 7.2%	5.0%	3.8%
アジア他	731	841	110	+ 15.1%	+ 3.0%	38	34	△ 4	△ 9.9%	△ 17.2%	5.2%	4.1%
連結調整	△ 130	△ 162	△ 32	-	-	△ 2	△ 0	2	-	-	-	-
カラー & ディスプレイ	1,672	2,482	810	+ 48.5%	+ 34.4%	40	51	11	+ 29.1%	+ 37.7%	2.4%	2.1%
日本	326	347	21	+ 6.5%	+ 6.5%	69	47	△ 22	△ 31.6%	△ 31.6%	21.1%	13.5%
海外	1,457	2,271	814	+ 55.9%	+ 39.1%	△ 28	3	31	黒字化	黒字化	-	0.1%
連結調整	△ 112	△ 137	△ 25	-	-	△ 2	1	2	-	-	-	-
ファンクショナルプロダクツ	2,833	3,154	321	+ 11.3%	+ 6.5%	262	236	△ 26	△ 9.9%	△ 13.6%	9.2%	7.5%
日本	2,013	2,169	157	+ 7.8%	+ 7.8%	161	147	△ 14	△ 8.9%	△ 8.9%	8.0%	6.8%
海外	1,083	1,288	205	+ 18.9%	+ 5.9%	101	89	△ 11	△ 11.1%	△ 20.9%	9.3%	6.9%
連結調整	△ 263	△ 303	△ 40	-	-	0	△ 0	△ 0	-	-	-	-
その他、全社・消去	△ 349	△ 424	△ 75	-	-	△ 89	△ 94	△ 5	-	-	-	-
連結合計	8,554	10,542	1,988	+ 23.2%	+ 16.2%	429	397	△ 32	△ 7.5%	△ 5.1%	5.0%	3.8%
USD/円	109.75	130.59		+ 19.0%		109.75	130.59		+ 19.0%			
EUR/円	129.73	137.71		+ 6.2%		129.73	137.71		+ 6.2%			

※C&Eの業績はカラー & ディスプレイ セグメントに含まれている

パッケージング&グラフィック

売上高

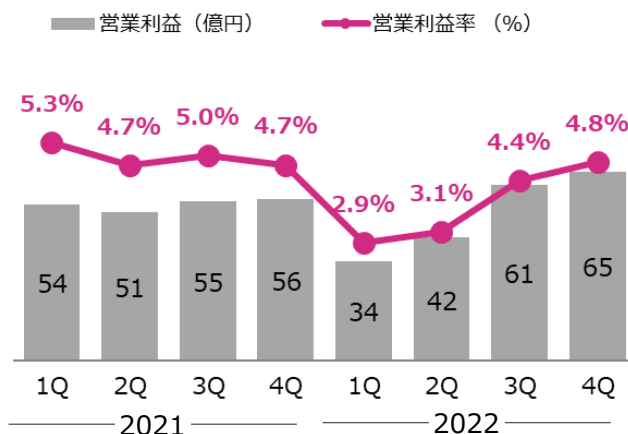
- 景気減速を背景に需要が落ち込んだ米州・欧州や厳しい行動制限が続いた中国を中心に出荷数量が減少したが、エネルギー、物流及び原料コスト増加に対する価格対応を進めた結果、増収

営業利益

- 米州・欧州を中心に海外で原料コストの増加分に対する価格転嫁が進んだが、出荷数量の減少と新興国通貨安による換算目減りにより減益となった
- Sapici（22年1月に買収したイタリアの接着剤・ポリマーカー）は欧州での接着剤製品の拡販により利益を着実に上げた

(億円)	売上高					営業利益					営業利益率	
	2021	2022	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2021	2022	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2021	2022
パッケージング&グラフィック	4,398	5,330	932	+ 21.2%	+ 14.9%	216	203	△ 13	△6.0%	+ 0.3%	4.9%	3.8%
日本	1,147	1,277	130	+ 11.4%	+ 11.4%	48	42	△ 6	△12.6%	△12.6%	4.2%	3.3%
米州・欧州	2,651	3,374	723	+ 27.3%	+ 19.7%	132	127	△ 5	△4.1%	+ 7.2%	5.0%	3.8%
アジア他	731	841	110	+ 15.1%	+ 3.0%	38	34	△ 4	△9.9%	△17.2%	5.2%	4.1%
連結調整	△ 130	△ 162	△ 32	-	-	△ 2	△ 0	2	-	-	-	-

四半期営業利益/営業利益率



主要製品の売上高推移

増減比		
パッケージ用インキ*	+ 18%	アジアでは中国のゼロコロナ政策の影響により中国で出荷数量が減少したが、各地域での価格対応により増収
出版用インキ*	+ 9%	国内の商業印刷需要の回復遅れや欧州での景気減速による出荷数量減少があったが、各地域の価格対応により増収
ジェットインキ	+ 4%	在庫調整により出荷数量は減少したが、円安による為替換算影響により増収となった
ポリスチレン	+ 27%	食品価格の値上がりにより食品包装用の需要が減少したが、価格改定による単価上昇により大幅な増収
多層フィルム	+ 14%	食品価格の値上がりにより食品包装用の需要が減少したが、価格改定による単価上昇により増収

*現地通貨ベース増減比

カラー&ディスプレイ

売上高

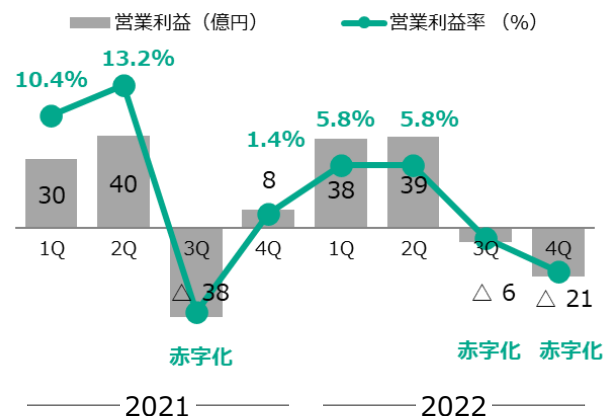
- ・ C&E顔料事業が加わったことにより、特に塗料用、プラスチック用および化粧品用顔料が大幅な増収となった
- ・ 欧州を中心に塗料用およびプラスチック用顔料の出荷が減速し、C&Eを除くと数量ベースでは前年を大幅に下回った

営業利益

- ・ 欧州での景気減速にともない全般的に出荷数量が減少したことに加え、ディスプレイ用顔料およびスペシャリティ用顔料などを中心に一部の高付加価値品の出荷が減少した
- ・ 前連結会計年度に計上したC&E顔料事業の統合に伴う一時費用40億円の計上が無くなったため増益となったが、欧州でのエネルギーコスト増加の影響により利益は押し下げられた

(億円)	売上高					営業利益					営業利益率	
	2021	2022	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2021	2022	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2021	2022
カラー & ディスプレイ	1,672	2,482	810	+ 48.5%	+ 34.4%	40	51	11	+ 29.1%	+ 37.7%	2.4%	2.1%
日本	326	347	21	+ 6.5%	+ 6.5%	69	47	△ 22	△ 31.6%	△ 31.6%	21.1%	13.5%
海外	1,457	2,271	814	+ 55.9%	+ 39.1%	△ 28	3	31	黒字化	黒字化	-	0.1%
連結調整	△ 112	△ 137	△ 25	-	-	△ 2	1	2	-	-	-	-

四半期営業利益/営業利益率



主要製品の売上高推移

	増減比	
顔料 塗料用	+ 75%	C&E顔料事業の売上が加わり増収だが、欧州では景気減速による需要の減退が顕著になっている
プラスチック用	+ 53%	C&E顔料事業の売上が加わり増収だが、欧州では景気減速による需要の減退が顕著になっている
インキ用	+ 15%	C&E顔料事業の売上が加わり増収だが、需要が軟化し価格競争が激しくなっている
化粧品用	+ 68%	C&E顔料事業の売上が加わり増収。コロナ前の数量の8割程度まで回復
ディスプレイ用	△ 31%	パネルの在庫調整により出荷が急減
スペシャリティ用	+ 24%	C&E顔料事業の売上が加わり増収だが、欧州では景気減速による需要の減退が顕著になっている
ヘルスケア食品	△ 7%	欧米での需要減少により低調な出荷となった

カラー&ディスプレイ 補足資料

カラー&ディスプレイ業績内訳（億円）

	売上高				営業利益			
	2021	2022	増減	増減比	2021	2022	増減	増減比
カラー&ディスプレイ	1,672	2,482	810	+ 48.5%	40	51	11	+ 29.1%
既存事業	1,205	1,123	△82	-	132	62	△70	-
C&E	467	1,359	892	-	△53	△11	42	-
一時費用（※）	-	-	-	-	△40	-	40	-

※ 買収時に取得した棚卸資産の時価評価により発生した、売上原価の一時的な増加額

- 既存事業のうち顔料事業は、ディスプレイ用顔料やスペシャリティ用顔料など一部の高付加価値製品の出荷減少や欧州での全般的な需要減少により、大幅な減益となった
- 既存事業のうち液晶事業は、第3四半期以降の出荷が減少し、減益となった
- C&Eは塗料用顔料やプラスチック用顔料が欧州における需要減少を受け、出荷数量が当初計画を大幅に下回った。加えて、欧州でのエネルギーコスト上昇により利益が押し下げられた

ファンクショナルプロダクツ

売上高

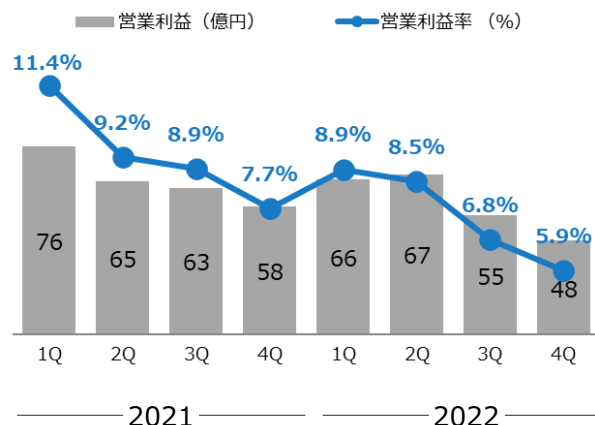
- 電気・電子やディスプレイを中心としたデジタル分野での需要減、および半導体不足による自動車市場の停滞により出荷数量が減少した
- 全体として数量は前年を下回ったが、国内外で価格対応を進めたことで増収

営業利益

- 各製品において、エネルギー、物流および原料コストの増加に対する価格対応が進んだが、デジタル分野を中心にエポキシ樹脂など高付加価値製品の出荷が落ち込み、減益

(億円)	売上高					営業利益					営業利益率	
	2021	2022	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2021	2022	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2021	2022
ファンクショナルプロダクツ	2,833	3,154	321	+ 11.3%	+ 6.5%	262	236	△ 26	△9.9%	△13.6%	9.2%	7.5%
日本	2,013	2,169	157	+ 7.8%	+ 7.8%	161	147	△ 14	△8.9%	△8.9%	8.0%	6.8%
海外	1,083	1,288	205	+ 18.9%	+ 5.9%	101	89	△ 11	△11.1%	△20.9%	9.3%	6.9%
連結調整	△ 263	△ 303	△ 40	-	-	0	△ 0	△ 0	-	-	-	-

四半期営業利益/営業利益率



主要製品の売上高推移

	増減比		増減比
エポキシ樹脂	+ 5%	PPSコンパウンド	+ 5%
ウレタン樹脂	+ 4%	工業用テープ	+ 13%
アクリル樹脂 *	+ 36%	中空糸膜モジュール	+ 23%
水性樹脂 *	+ 29%		
ポリエステル樹脂 *	+ 18%		
UV硬化型樹脂	+ 5%		

デジタル関連は、工業用テープ、中空糸膜モジュールは好調に推移したものの、エポキシ樹脂は大きく出荷数量が落ち込んだ。PPSコンパウンドは住設機器向けなど自動車以外の用途の出荷を伸ばし、自動車減産影響による減少は軽微となった

2023年度：通期の業績見通し

訂正後

(億円)	2022	2023 見通し	増減比	現地通貨 ベース 増減比
売上高	10,542	11,500	+ 9.1%	+ 9.3%
営業利益	397	430	+ 8.4%	+ 8.3%
営業利益率	3.8%	3.7%	—	—
経常利益	399	400	+ 0.1%	
親会社株主に帰属する当期純利益	176	200	+ 13.6%	
1株当たり純利益 (円)	186.05	211.30	—	
EBITDA*1	855	870	+ 1.8%	
設備投資・投融資	811	692	△14.7%	
減価償却費・のれん償却額	488	490	+ 0.4%	
平均レート				
USD/円	130.59	130.00	△0.5%	
EUR/円	137.71	140.00	+ 1.7%	

	2022	2023 見通し
ROIC*2	3.6%	3.6%
ネットD/Eレシオ *3	1.15倍	1.09倍
年間配当／株 (円)	100.0	100.0
配当性向	53.7%	47.3%

*2ROIC：営業利益×（1-実効税率28%）／（ネット有利子負債＋純資産）

*3ネットD/Eレシオ： ネット有利子負債／自己資本

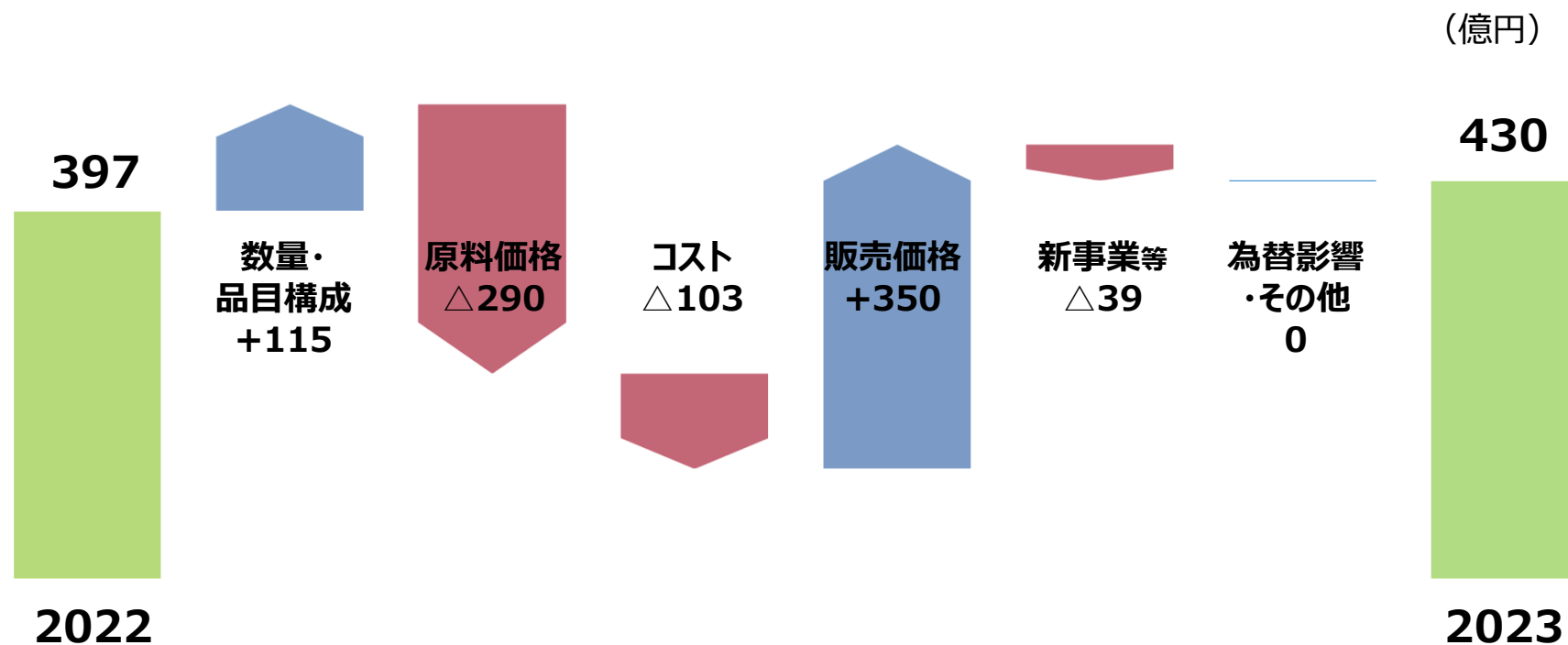
*1EBITDA：親会社株主に帰属する当期純利益＋法人税等合計＋支払利息－受取利息＋減価償却費＋のれん償却額

2023年度：上期の業績見通し

(億円)		2022 2Q	2023 2Q見通し	増減比
売上高		5,214	5,700	+ 9.3%
営業利益		240	190	△20.7%
営業利益率		4.6%	3.3%	－
経常利益		262	170	△35.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益		144	70	△51.4%
1株当たり純利益 (円)		152.03	73.95	－
平均レート	USD/円	123.25	130.00	+ 5.5%
	EUR/円	134.89	140.00	+ 3.8%

2023年度：営業利益増減要因

- 2022年度に景気減速にともなって減少した出荷数量は、市場での在庫調整の終了とともに一定量の回復を見込むが、戻りは緩やかになる見通し
- 2月14日発表時点の前提となる原油価格（WTI）は\$80~90を想定。地域ごとに原料価格に反映されるまでのタイムラグがあるため、全体としては原料価格値下がり効果の発現は緩やかになると想定
- 国内においてエネルギーコストのもう一段の上昇が見込まれており、インフレによるコスト上昇が継続する見通し。適切な販売価格のコントロールにより収益性を維持する
- DIC Vision 2030達成を見据え、事業ポートフォリオ変革を着実に実施するため、新事業創出や経営インフラ高度化のためのコスト増を織り込む



2023年度：通期のセグメント別業績見通し

(億円)	売 上 高					営 業 利 益					営 業 利 益 率	
	2022	2023 見通し	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2022	2023 見通し	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2022	2023 見通し
パッケージング&グラフィック	5,330	5,699	369	+ 6.9%	+ 7.0%	203	215	11	+ 5.7%	+ 5.6%	3.8%	3.8%
日本	1,277	1,317	40	+ 3.1%	+ 3.1%	42	47	5	+ 11.3%	+ 11.3%	3.3%	3.6%
米州・欧州	3,374	3,606	232	+ 6.9%	+ 7.4%	127	123	△ 4	△ 3.3%	△ 3.4%	3.8%	3.4%
アジア他	841	945	103	+ 12.3%	+ 10.9%	34	45	11	+ 31.4%	+ 30.9%	4.1%	4.8%
連結調整	△ 162	△ 169	△ 7	-	-	△ 0	0	0	-	-	-	-
カラー & ディスプレイ	2,482	2,823	341	+ 13.8%	+ 14.2%	51	93	42	+ 83.3%	+ 83.2%	2.1%	3.3%
日本	347	369	21	+ 6.1%	+ 6.1%	47	58	10	+ 22.2%	+ 22.2%	13.5%	15.6%
海外	2,271	2,615	344	+ 15.1%	+ 15.6%	3	36	33	+ 981.3%	+ 997.9%	0.1%	1.4%
連結調整	△ 137	△ 160	△ 23	-	-	1	0	△ 1	-	-	-	-
ファンクショナルプロダクツ	3,154	3,493	339	+ 10.8%	+ 10.9%	236	253	17	+ 7.2%	+ 7.2%	7.5%	7.2%
日本	2,169	2,269	99	+ 4.6%	+ 4.6%	147	160	13	+ 8.7%	+ 8.7%	6.8%	7.0%
海外	1,288	1,503	215	+ 16.7%	+ 16.9%	89	93	4	+ 4.6%	+ 4.7%	6.9%	6.2%
連結調整	△ 303	△ 278	25	-	-	△ 0	0	0	-	-	-	-
その他、全社・消去	△ 424	△ 515	△ 91	-	-	△ 94	△ 131	△ 38	-	-	-	-
連結合計	10,542	11,500	958	+ 9.1%	+ 9.3%	397	430	33	+ 8.4%	+ 8.3%	3.8%	3.7%
USD/円	130.59	130.00		△ 0.5%		130.59	130.00		△ 0.5%			
EUR/円	137.71	140.00		+ 1.7%		137.71	140.00		+ 1.7%			

主なトピックス (2022年10月～2023年2月)

ニュースリリース
<https://www.dic-global.com/ja/news/2023/> 

11月

イスラエルVaxa社の水産養殖業界向け微細藻類餌料『UltraNanno™』を国内で販売開始

- ・ 高品質かつサステナブルな水産養殖用の生藻体餌料の供給により稚魚の安定生産に貢献

11月

五感と感性を解き明かし、人と地球の調和につながるビジネスの創出を目指す「DIC 五感と感性の研究所」を新設

11月

経済産業省が定める「DX認定事業者」に認定

12月

世界的なESG投資指標「Dow Jones Sustainability Indices Asia Pacific」(DJSI AP) の構成銘柄に8年連続で採用

1月

肌と気持ちに寄り添う“感性スキンケア”ブランド『fillwith』の販売を開始

- ・ 藍藻類スイゼンジノリ（当社が世界で初めて屋内における量産化技術の確立に成功）を原料とする「スイゼンジノリ細胞外多糖体（商標名：サクラン®※）」を配合したスキンケア商品

※「サクラン®」はグリーンサイエンス・マテリアル株式会社（GSM社）の登録商標

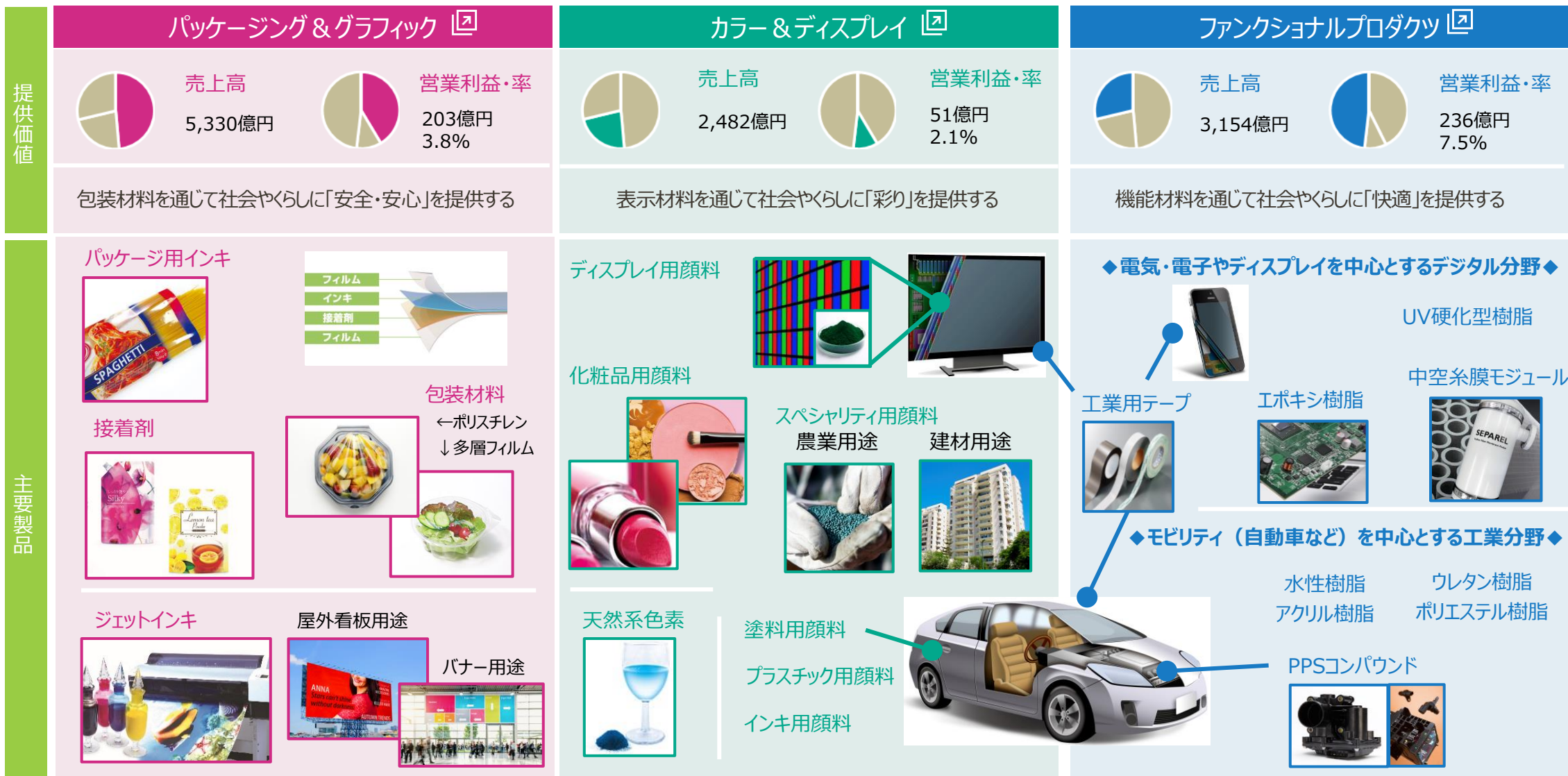
2月

サカタインクス株式会社との業務提携を行うことを発表

- ・ 国内の商業オフ輪インキおよび新聞インキ事業において、両社の生産設備・物流施設を相互に有効活用し、効率的配送、一部生産の協業やB C Pなどを検討していく

事業セグメントと主要製品

2022年度実績数値



連結貸借対照表（参考）

(億円)	2021 期末	2022 期末	増 減
流動資産	5,421	6,600	1,179
有形固定資産	3,077	3,535	459
無形固定資産	523	788	265
投資その他の資産	1,694	1,694	0
資産合計	10,715	12,616	1,902
流動負債	3,056	3,899	843
固定負債	3,849	4,507	658
負債合計	6,905	8,405	1,501
株主資本	4,039	4,118	79
その他の包括利益累計額	△ 580	△ 248	332
（為替換算調整勘定）	(△ 555)	(△ 173)	(382)
非支配株主持分	351	341	△ 10
純資産合計	3,810	4,211	401
負債純資産合計	10,715	12,616	1,902
有利子負債残高	3,842	5,093	1,251
現預金残高	383	634	251
ネット有利子負債	3,460	4,459	1,000

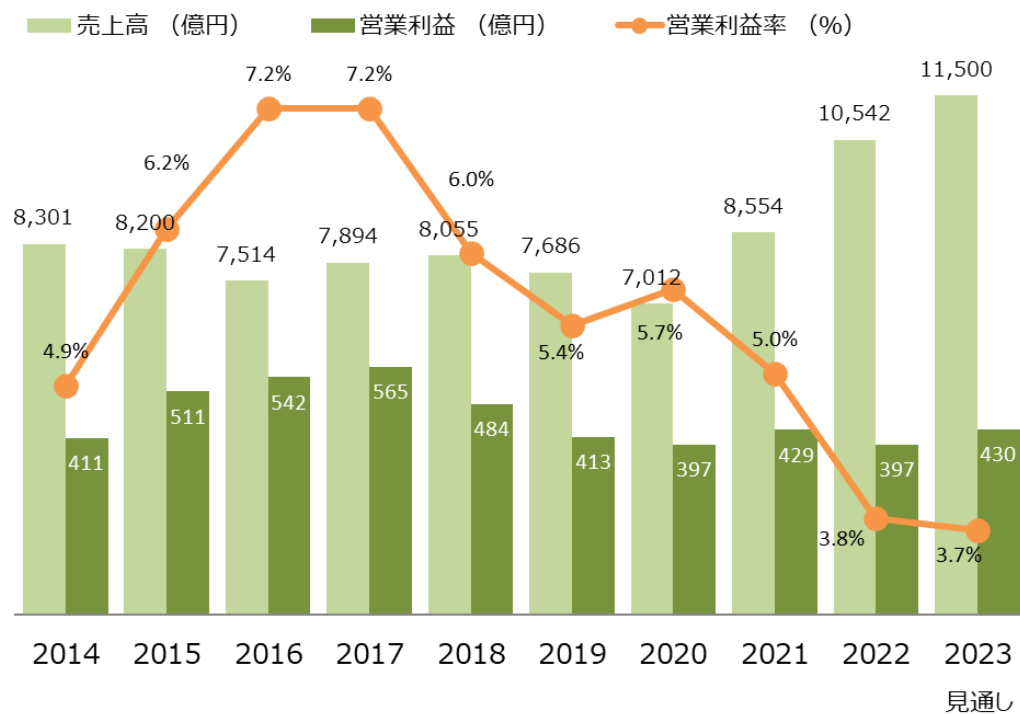
連結キャッシュ・フロー計算書

訂正後

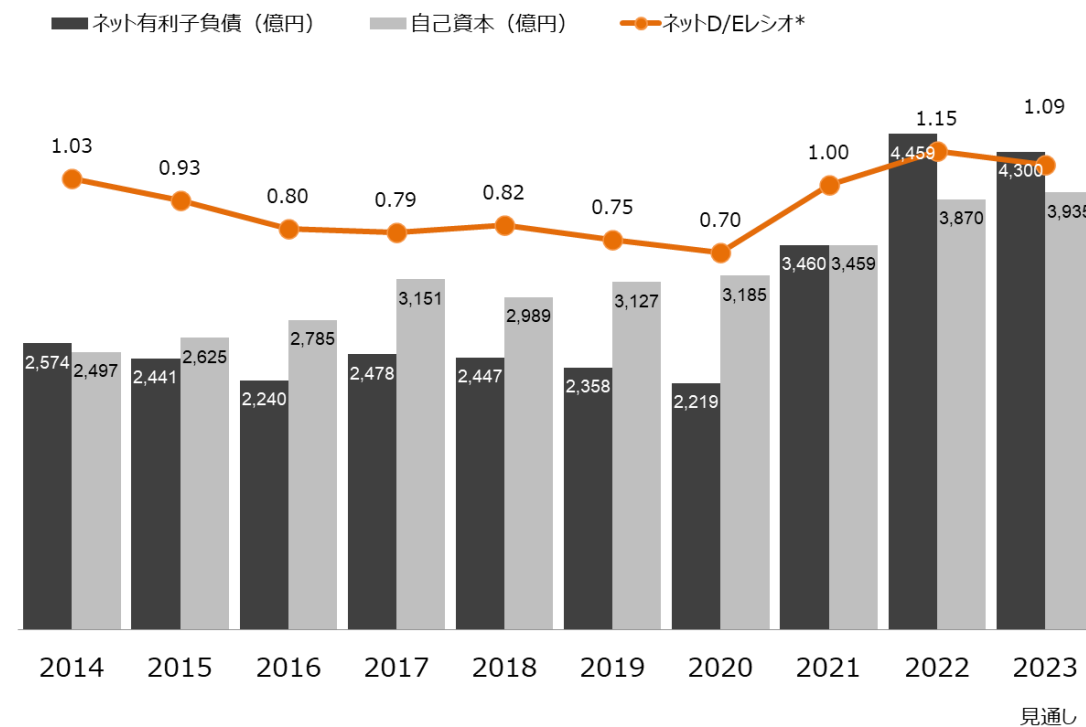
(億円)	2021	2022	増 減
営業キャッシュ・フロー	448	<u>79</u>	<u>△ 369</u>
投資キャッシュ・フロー	△ 1,476	<u>△ 732</u>	<u>745</u>
財務キャッシュ・フロー	995	839	△ 156
現金及び現金同等物の期末残高	376	626	250
フリーキャッシュ・フロー	△ 1,028	△ 652	376
運転資本の増減額	△ 161	△ 520	△ 359
設備投資・投融資	1,682	<u>811</u>	<u>△ 871</u>
減価償却費・のれん償却額	381	488	107

業績の推移（参考）

業績



財務体質



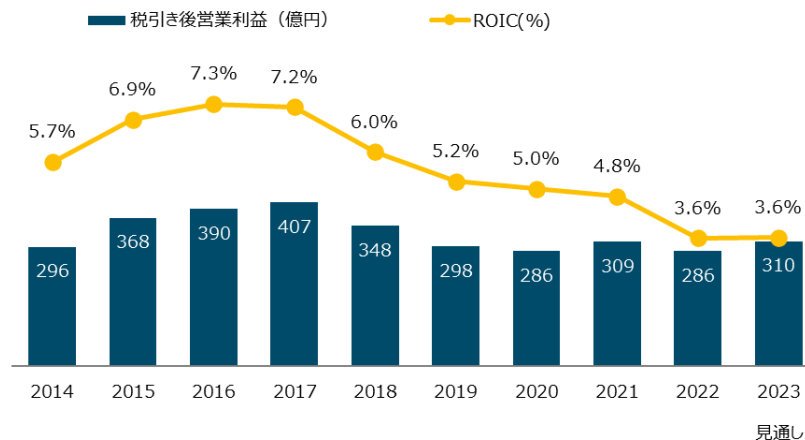
* ネットD/Eレシオ： ネット有利子負債／自己資本

業績の推移（参考）

訂正後

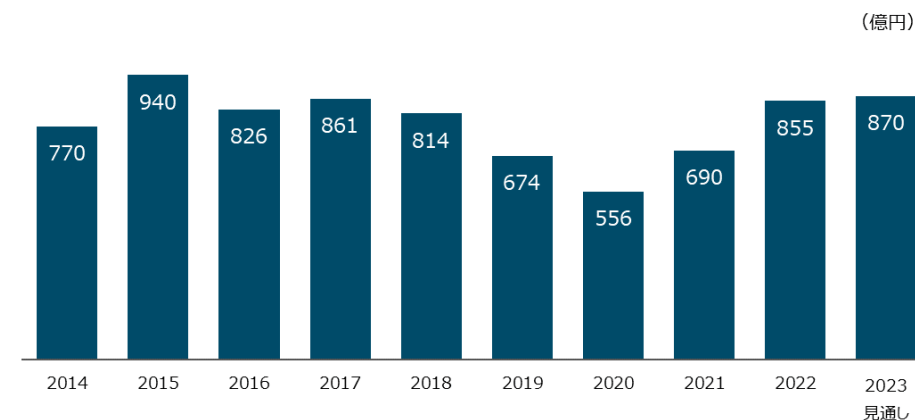
ROIC*

*ROIC：営業利益×（1-実効税率28%）／（ネット有利子負債＋純資産）

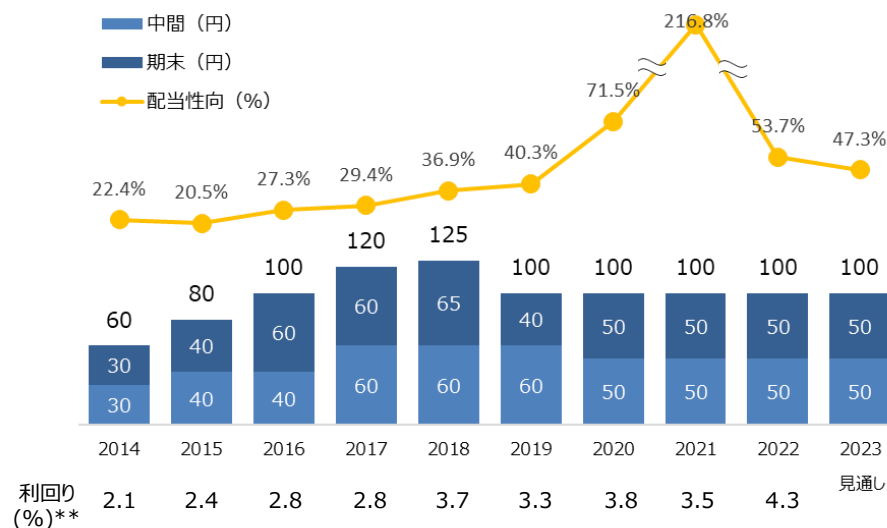


EBITDA*

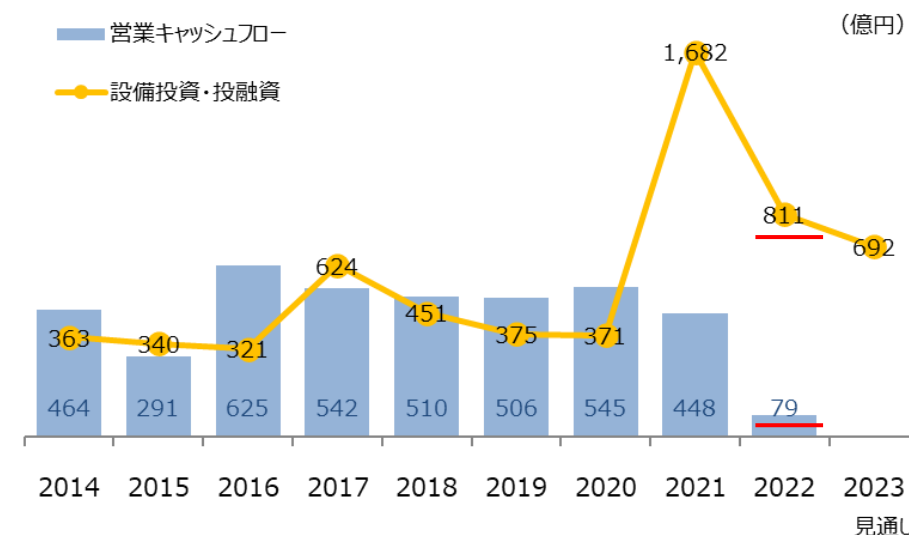
*EBITDA：親会社株主に帰属する当期純利益＋法人税等合計＋支払利息－受取利息＋減価償却費＋のれん償却額



株主還元*



設備投資・投融資・営業キャッシュフロー



* 株式併合の影響を調整しています

** 配当利回り：年間配当金/期末の株価終値

＜予想に関する注意事項＞

本資料は、情報の提供を目的としており、いかなる勧誘行為を行うものではありません。
業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき、当社の経営者が判断した見通しですが、
実際の売上高及び利益は、記載している予想数値とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

当社は、業績見通しの正確性・完全性に関する責任を負うものではありません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。

本資料に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、
当社は責任を負うものではありません。



Color & Comfort



DIC Corporation